インターンシップ最終報告書
～湯本の街づくり～

第5期インターン生
いく

目次

１．インターンシップの目的
２．インターンの主な内容
３．受入施設の紹介
　〇フラオンパク
　〇古滝屋
　〇こいと旅館
４．活動内容とそのまとめ
　〇フラオンパク
　〇会津暦
　〇地域調査
５．湯本の農家
６．地域調査から感じる湯本
７．まとめ

１．インターンシップの目的

①実際に体験することで、観光・地域作り・地産地消のプロセスを学ぶこと

②たくさんの人との出会いやつながりを通して、様々な考えに触れること

③一つのことをやり遂げることで自分の自身につなげること

２．主な活動内容

〇いわき市のイベント「映画祭」でのスタッフ活動
〇フラオンパクの活動準備
〇ホテルオークラ元総料理長・星先生との対談
〇会津暦についての活動
〇福島県八の字プロジェクト参加
〇スミレ館女子会プラン作成
〇湯本地域調査

３．受入施設の紹介

○フラオンパクについて

・オンパク（別府八湯温泉泊覧会）とフラダンスのフラを合わせた意味で名付けられた。

知っているようで知らない地域の素顔を発見しようという試み
いわき市では、温泊の『温』は温故知新の『温』・『泊』は『泊まってみて歩く』の『泊』としている。

・各個人が企画した、いわき市の資源を感じるためのツアーや体験・コンサートなどを中心としたイベントである。
・オンパクは東北・関東・関西など地区一か所のみであり、東北の開催地はいわき市である。
・いわき市では、『いわき観光キャンペーン』の一事業としてのオンパクを位置づけている

企画趣旨

- ①資源②体験③保護の三つの柱を基本構想にして、観光交流人口の増加を図り、**「心と体が健康で楽しい暮らし」**を提案すること
- 滞在拠点化のために、いわき市内の参加型・体験型プロジェクトを展開する団体と協働し『いわきツーリズム』振興を推進していく

いわき市オンパクテーマ

地域住民一体となった

いわきの新しい滞在型観光スタイル

を構築する

フラオンパクでのプログラムテーマ

①地域歴史の発掘　　②地域人材の発掘
③天然温泉力の体験　　④地域文化の体験
⑤いわきの自然を体験　⑥ポスト「フラガール」の確立
⑦いわき市の日常にある食文化を掘り起こし
⑧気軽にリーズナブルに利用できる交通の確立

・地域産業が元気である
・人がイキイキしている
・余所にはない魅力

『あるものを活かす』

地域資源という地域の宝

地域と人々を1つにまとめよう！！

〇会津暦について

会津暦とは、京歴、三嶋暦に並ぶ日本三大暦の一つである。時代の政治・仕事・日常生活に深く関わり、昔の人々の生活は暦によって左右されたほど重要なもの。一度はなくなった会津暦を復活させよう！！

会津暦復刻プロジェクトイベント

会津暦の印刷屋があった七日町を、江戸時代の仮装をながらスタンプラリー方式で探索するというもの

ターゲット：女性のコスプレイヤー

・スタンプラリー方式にすることで、七日町の各店への集客を見込むこともできる

・当日は会津暦の復刻版冊子を配る予定であった

○古滝屋について

・元禄8年(1695年)に創業　2010年に315周年を迎える歴史ある旅館である

・客室60室　350人収容可　150畳

・バルネオセラピスト20人(温泉としては全国1位)

↳ 温泉医学や予防医学に基づき、温泉の持つ保健的機能から温泉療法を活用して健康づくりの方法をアドバイスするひとのこと

古滝屋の特徴：宿泊女性客専用露天風呂「天女の湯あみ」

ユニバーサルデザインルーム「花心楼」4室

↑

男性客中心であったため女性をターゲットにした

古滝屋の「花心楼」

ユニバーサルデザインの理念を持ったデザイナーズルーム

「碧」「茜」「紫苑」「瑠璃」の４室があり、小さな子共連れから年配の方、障がいをもつ方、妊婦の方、外国人の方等、誰でもくつろげる空間作りを目指した

shion

ruri

midori

akane

〇こいと旅館について

アットホームな温かい雰囲気の旅館

<u>こいと旅館のこだわり</u>

・温泉

・売店

・手作りの無料パンフレット

・豊富な宿泊プラン

<u>こいとの温泉</u>

・源泉かけ流し、季節や気候によって湯の色が変わる温泉

・50度の熱さで出てくる温泉を、水で薄めずに自然な熱の放出で時間をかけて40度まで下げている

加水しない、加温しない、循環させない

「かけ流しの本物の温泉」

こいと旅館のパンフレット

・従業員一人一人が考え、手作りで作った

・顔写真をのせて安心感を与えている

こいと旅館の売店

・売店のものに説明書きをつけたポップを置いている⇒売れ悩んでいたキーホルダー完売

・手書きの黒板でなじみある雰囲気を出している

こいと旅館の宿泊プラン

・子連れの家族、女子会、サラリーマンetc…様々なターゲッティングによる豊富なプランを用意

・従業員の案を尊重⇒実行している

４．各施設での活動

○フラオンパクでの活動内容

フラオンパクで使用するクーポンの、旅館『古滝屋』の適用サービスを増やすこと

古滝屋のクーポン内容・・・

<u>売店で1000円以上購入の場合100円割引</u>

↓

もっと古滝屋の特徴を活かした顧客率を見込めるようなクーポン内容にしたい

↓

プレゼン作成

古滝屋若旦那である里見さんにプレゼン発表

プレゼン内容

案①：一泊二食あんこう御膳11550円⇒1000円引き

ターゲット：古滝屋の宿泊希望者、福島ならではの食を求めている人

目的：古滝屋でお勧めしているあんこう鍋を、より多くの人に知ってもらう為、そしてそれを通して福島の食を知ってもらう為

案②：エステハワイアンロメロメメニュー10％引き

ターゲット：女性

目的：古滝屋の女性集客率を上げる為
フラオンパクへの若者参加率を上げる為

古滝屋の従業員の方で相談し、結果待ちという形に

※震災などの影響もあり、未だお返事はいただいていません

フラオンパクでの活動を通して感じたこと

フラオンパクの課題点

・フラオンパクと地域住民や旅館などの一体感がとれていない

└フラオンパクの開催に必要不可欠な地域(人々・旅館)であるが、開催日やイベント内容などの情報が生き届いていないために、十分な準備ができていない。

パソコンのホームページなどを利用して情報を提供しているが、パソコンを利用している地域の方が少ない

⇒回覧板などや、定期的に会議など開いて情報を共有しあう必要があるのではないか

・宣伝が生き届いていない

└県内の近場からの参加者が多く、県外への宣伝があまりできていない

⇒他県にもフラオンパク宣伝のポスターやちらしを置いたり、ホームページの情報を載せてアピールする必要があるのではないか

・ボランティアの人々の移り変わりが激しい

└1人中心核の人がいれば良いのだが、それもいない。フラオンパクのことをわかっている人がいないから、毎回ゼロからのスタートになってしまう。また、資料も詳しいものが残っていない。

せっかく継続的なイベントであるのに前回までのことを活かしきれない。

<u>この取り組みについての自分達の課題点</u>

・企画の意外性、生産性が欠けている

└古滝屋がこれまでやったことのある提案であったこと、この企画が実行することで実際に集客が見込めるような魅力的な企画案でなかったこと

今回古滝屋の若旦那である里見さんにプレゼンする機会を頂いたが、質問どころかメモすらとっていただけなかった。それほど魅力的ではない企画だったと反省した。

また、古滝屋の支配人である鴻野さんにも意外性がないという面で指摘いただいた。分かりやすく魅力ある企画案とプレゼンという面でまだまだ力不足であると感じた。

〇会津暦での活動内容

会津暦復刻プロジェクトイベント準備

・会津暦復刻プロジェクト七日町通りまちなみ協議会、協議会規約＆評議会規約作成

・イベント参加者(東京・大阪・新潟・仙台)交
通手段とホテルの提案提供作業

・イベントちらし印刷作業

・七日町マップ作成

・七日町探索＆ホームページ用写真撮影

・イベントでお世話になるお店にあいさつとお願い

会津暦での活動を通して感じたこと

・情報の正確さの重要性

交通手段の情報を提供するにはいくつかの手段を考え、その中からさらに利用者にとって最善の手段を考えなくてはならない。マップ一つを作るにしても情報が正確でなければ客は来ない。

・マーケティングの基本、ターゲッティング

ターゲットはニーズに合わせて変わる。その社会的状況、環境に合わせて考える必要性がある。誰をターゲットにするかによって、見込める生産性も変わってくるということ。

・歴史に付加価値をつけるということ

会津暦という、昔からの会津の歴史を否定せずにそこに江戸時代のコスプレでのイベントという現代の流行にのっとた付加価値をつけることで、会津の地域活性化につなげていく事。

５．湯本の農家

いわき市は、年間の日照時間が長い＆雪があまりふらない⇒農業にとても向いている

あかい菜園株式会社(トマト菜園)

└収入の50％以上が農業である、農家に近い企業

トマト・・・スーパーでの売り上げＮＯ.１であり、
一年中栽培できる。単価が高い。

販路⇒JA農協福島、直売所、市場など※市場は収入が安定しない

特徴⇒・93％の品種が『桃太郎』

日本人好みに作られた、昔からある品種
病気に成りにくいトマト

・冬も暖房や太陽光で甘いトマトを作れる

・蜂を飼って自然に近い形で受粉させている

課題⇒・市場を通じているため、上記のような特徴を情報として消費者に提供することができない

・加工品をつくる業者がいわき市に存在せず、商品の幅を広げることができない

※県外でつくったものは福島のものとして出せない

・エコファーマーがとれない⇒**養液栽培**のため

本来エコな栽培でおいしいトマトを作っているのにその情報を活かしきれない現状

<u>直売所での販売の様子</u>

ジャムやジュースなどの加工品もおいている

おすすめレシピの紹介⇒

様々な種類のトマト⇒

6．地域調査から感じる湯本

湯本はこんな町

『童謡』をテーマに、人にやさしい町づくりを行っている

└湯本の駅にはシャボン玉の唄が流れたり、様々な童謡の
　キャラクタ達の像が町の至るところにある。
　その他、広くて車いすが通れる道や段差がない道など、
　やさしい町づくりを行っている

湯本の町づくりの課題

・地域の人々が楽しむ町づくり

└地元の人々が楽しいような町でなければ観光もうまくい　かない。
　昔のにぎやかさを取り戻す必要がある

・地域の人々と町づくりの中心核の人々との情報交換

└地域の人々や旅館の人々は、湯本の地域活性化のために1人
　1人考えている。しかし、中心核の人々との情報交換がうま
　くできないために、そのアイディアを活かすことができない。

インターンを通して感じたこと＆まとめ

・人とのつながりの大切さ

└人から人へ、その日初めて会った人との出会いが新たな出会いを生み、そして様々な考えに触れることができた

・町つくりには、地域の一体感、そして地域の資源を活かすことが必要である

└新しいものを生みだしたりすることも大切であるが、それまでの歴史を否定して作りだすのではなく、今までの歴史に付加価値をつけていくことが大切である。
そしてそれには、地域の人々が地域をよく理解し、地域の良さを知り、皆で地域作りを行っていこうとすることが大切である。

今回の研修で学んだことは、情報の重要性、ネットワークの必要性、社会的コミュニケーションの大切さ、考えを実現させることの難しさである。そして、実際に企画や体験をしてみて、自分の能力の低さや甘さ、社会的現実とも向き合うことができた。
このインターンで学んだこと、得たこと、出会った人々、積み重なった思い出は今後一生私の中に残るものであるし、これからの人生を通して育てていきたいものである。
また、今回東日本大震災という出来事があり、福島県、宮城県含めたくさんの地域の人々が被災した。そして東北も農業、漁業、産業など様々な面において多大な被害を受けた。これらの復興には、長い年月を必要とするであろうがその先頭を行くのは私達である。今回のインターンでの学びを活かし、どんな形でもその貢献に少しでも関わっていきたいと思っている。
インターンで関わったすべての人々、そしてこの機会を与えてくださった素材広場の皆さんに感謝しています。ありがとうございました。